

## ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

<b>企画名称 (講演タイトル)</b>	東洋大学ボランティアカフェ (東北編) 「わたしの 3.11、あなたの 3.11～震災 10 年と、これから～」
<b>リソースパーソン (共同企画者)</b>	渡邊 蛍都さん (東洋大学総合情報学部総合情報学科 3 年、学ボラ TOP 大船渡、ボランティア支援室サポートスタッフ)
<b>スペシャルゲスト</b>	那須 彩乃さん (大正大学地域創生学部地域創生学科 4 年、NPO 法人きっかけ食堂、一般社団法人未来の準備室) 沼能 奈津子さん (旅行代理店エコ・スタディツアー企画担当)
<b>開催期間・日時</b>	2021 年 3 月 2 日 (火) 17:00～18:30 2021 年 3 月 9 日 (火) 17:00～18:30 2021 年 3 月 16 日 (火) 17:00～18:30
<b>会 場</b>	Zoom によるオンライン開催
<b>目 的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動が社会において一般化するきっかけの一つとなった東日本大震災を取り上げ、その復興過程に関わるボランティアのロールモデルを示すことにより、ボランティア活動の多様な魅力を伝えること。</li> <li>・被災地域に関わる活動の話題を通じて、地域の過去・現在・未来の状況を掴み、参加者それぞれが自らの問題として考えるための素材を提供すること。</li> </ul>
<b>参加者数</b>	2 日 : 22 名、9 日 : 10 名、16 日 : 17 名
<b>活動内容(概要)</b>	<p>2021 年 3 月 11 日に東日本大震災から 10 年を迎えるにあたり、ボランティアカフェ東北編「わたしの 3.11、あなたの 3.11～震災 10 年と、これから～」を開催しました。</p> <p>東北編は三回開催となっており、第 1 回では参加者同士の交流を図ることを目的としてアイスブレイクを行った後に、グループに分かれて 2011 年 3 月 11 日の出来事を振り返り、この 10 年の変化や、これからの 10 年について考え意見を共有しました。</p> <p>第 2 回では東北に関わりのある那須彩乃さん、沼能奈津子さんの 2 人をゲストスピーカーとして迎えお話をいただき、話を聞く中で生まれた質問や感想を参加者全員で共有しました。</p> <p>那須彩乃さんは東京生まれの大正大学 4 年生で、大学の地域実習を通して東北に関わり、東北に夢中になった経験をもとにお話をいただきました。この春大学を卒業し、福島県白河市の一般社団法人未来の準備室のスタッフとして新たなスタートを切りますが、実習に参加するまで特に接点のなかった東北が、大学生活の大半を占めるようになり、卒業後の進路を切り拓くまでに至りました。</p> <p>沼能奈津子さんは、福島県浪江町にあった自宅が、福島第一原子力発電所事故に伴い帰還困難区域に指定され、その経験を通じて自身に起こった変化や、その後のことについてお話をいただきました。特に、福島出身であることで、「被災者」としての役割を周囲から期待されることへの違和感を、率直にお話しいただきました。</p> <p>第 3 回では、ボランティアやインターンの活動を通して東北に関わってきた東洋大学 3 年生の渡邊蛍都さんを迎えてお話をいただきました。高校時代、大船渡にボランティアとして足を運んだ際、「お客様」になってしまったことへの後悔から、大学入学後学ボラに加入し、TOP (東北応援プロジェクト) 大船渡の活動に主体的に関わります。そこから、復興庁が主催する「復興・創生インターン 2020」(オンライン開催)に参加。</p>

## ボランティア企画の実施報告書(本学主催のみ)

岩手県宮古市のホタテ漁師のもとでインターンを行った渡邊さんは「ホタテアンバサダー」として、宮古のホタテの魅力を、インターン終了後も発信し続けています。ボランティアカフェ内においても、見事なホタテさばきを披露いただきました。

ボランティアカフェ東北編には東洋大学の学生だけでなく、たくさんの地域から参加者が集まりました。当時のテレビはどんな事を報道していたのか、学校ではどんな変化があったのかなど、参加者一人一人が当時の事を思い出す事や、他者の経験を知ることができました。

参加者の1人が「今10才にならないくらいの子は東日本大震災を体験していないから、自分たちが当時の事を伝えていかなければならない」と言っていた事が印象的でした。今回のボランティアカフェで参加者同士共有したことはとても価値があるものなのではないでしょうか。

この10年の節目の捉え方は人それぞれだと思います。新型コロナウイルスの影響により、対面で会えない中でも東北に関心のある人が集まり、たくさんの思いを知ることができたこの「節目」はとても大切なものだと思います。

(法学部法学科2年、ボランティア支援室サポートスタッフ 中川 優子さん)

**※写真があれば数枚を添付。但し、HPや広報誌に掲載する場合がありますため、被写体の了解を得るなど、掲載可能な写真を提出してください。**

